

目標（3） 市民と行政が信頼関係を深め ともにまちづくりを行います



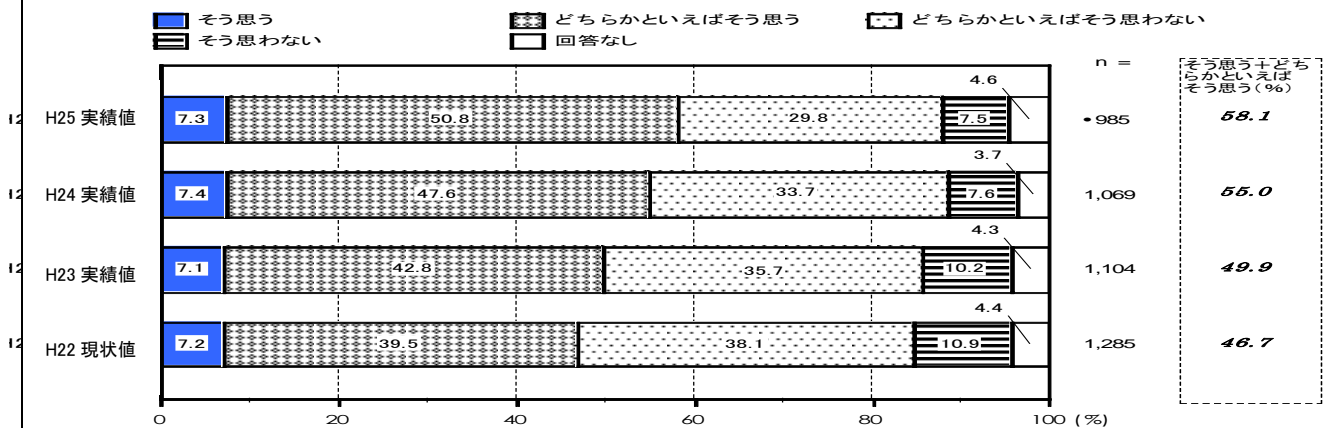
▲自治基本条例 出前授業

I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	元気で活気に満ちたまちづくりを目指し、「高浜市自治基本条例」の趣旨を活かして地域の課題解決や魅力の向上に向けて知恵を出し合い、ともに汗をかいていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市民と行政の意見交換が活発に行われ、お互いの信頼関係が深まり、ともにまちづくりを行っています。 ◇ 地域の課題を地域の自主的・主体的な活動により解決する取り組みが活発に行われています。 ◇ 市民同士がきちんと話し合いをして、お互いに納得できる合意を創り出すなど自治力が向上しています。 ◇ 多くの市民がまちづくりに関わり、地域のニーズに即して税が有効に活用されています。

2. 市民意識調査結果

【設問】市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行っているまちだと思う



3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 「高浜市自治基本条例」を知っている人の割合	2) 地域活動に参加したことがある人の割合	3) 地域活動に参加したことがある職員の割合
<p>H25 目標値 30%</p> <p>現状値なし</p> <p>H23: 11.1%, H24: 12.4%, H25: 12.7%</p>	<p>H25 目標値 55%</p> <p>H22: 45.4%, H23: 54.6%, H24: 56.0%, H25: 55.2%</p>	<p>H25 目標値 60%</p> <p>H22: 45.0%, H23: 59.0%, H24: 63.1%, H25: 61.1%</p>

4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ◆「指標1」は目標値に至らなかったが、自治基本条例を知っていただくよりも、条例の精神を広め、まちづくりに参加・参画する人を増やす取組みに注力した。今後も条例に込められた思い・精神を伝えていく。
- ◆「指標2・3」は、まちづくり協議会への活動支援やまちづくりフォーラムの開催など、協働のまちづくりを進めてきた成果であるが、継続的な取組みが必要である。特に「指標3」では、さらなる数値の上昇に向け、研修以外に、職員が地域活動に参加しやすい仕組みづくりが必要である。
- ◆「市民意識調査」結果では、女性に比べて、男性の「そう思う+どちらかといえばそう思う」の割合が低くなっており、男性が活躍できる取組みを推進する必要がある。

II. 目標達成のための主な取組み

こんなことに取り組みます！	何を・どうした	いつ
★「高浜市自治基本条例」に基づいた自治の仕組みをわかりやすく示し、まちづくりの中で活用します。	①市民会議自治推進分科会等と協働で「自治基本条例子ども向け副読本」を作成し、小学6年生を対象に「出前授業」を実施した。	H25.2～3 H26.2～3
	②「参画・協働・情報共有ガイドライン」（案）を策定した。	H26.3
	③まちづくり協議会サミットにおいて「（仮称）まちづくり協議会条例」（素案）を審議し、策定した。	H23.11 ～H26.3
★地域の「どうしよう？」を解決し、「こうしたい！」という思いを実現するための仕組みとして「市民予算枠事業」を行います。	①地域内分権推進型（のべ35団体39件）協働推進型（のべ15件・21件）の事業に対し、交付金を交付した。	H23.4 ～H26.3
	②まちづくりフォーラム等でパネルを展示するなど、活動の「見える化」を行い、活動の意義・効果等を発信した。	H24.2/H25.2/H25.9
	③「提案書作成手引き」を作成し、まちづくりフォーラム等で説明・配布し、活動の掘り起こしを行った。	H24.9 ～H26.3
★限られた財源を地域で有効活用するため、「まちづくり総合交付金制度」の導入を検討します。	①他自治体の事例を調査し、効果・課題等を洗い出し、交付金の今後の方向性・方針（案）を報告書としてまとめた。	H23.4 ～H25.3
☆新たな自治の仕組みづくりのため、市民力、職員カアップに取り組めます。	①まちづくりシンポジウムやフォーラムを開催した。（参加者数：のべ957人）	H24.2/H25.2/H25.9
	②衣浦定住自立圏市民活動情報サイトを活用し、市内団体の活動の情報発信を行った。（登録団体数：55団体）	H24.4～
	③「たかはま地域経営実践塾」等、各種職員研修を実施した。	H23.4～

III. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
①自治基本条例の精神の普及 ・即効性を求めるのではなく、漢方薬のようにじわじわと広めていくしかない。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「出前授業」を高浜カリキュラムに組み込み、総合学習の集大成として、地域との協働により全小学校での実施を定着させる。 ◇ 「参画・協働・情報共有ガイドライン」に沿った具体的なアクションを各部署で展開する。
②現場の声を踏まえて、市民による主体的なまちづくり活動が活発になる仕組みを検討 ・活動の意義・効果が、十分に伝わっていない。高浜市らしい協働のあり方を見出していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 活動の意義・効果等を紹介する取組みを強化する。 ◇ まちづくりの裾野を広げる取組み、男性が活躍できる取組みを進める。 ◇ 交付金のあり方や行政の各部門の関わり方など、地域活動が活発になる仕組みを検討する。
③問題意識・使命感を持った職員の育成と職場全体の底力の向上 ・ベテランから若手への入替が急速に進む中、若手職員の育成が急務である。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「たかはま地域経営実践塾」「若手職員成長支援研修」などにより、積極的・主体的に行動できる職員の育成に取り組む。 ◇ 職員の地域活動への参加を促進し、知識・能力・資質の向上など、職員力を“現場”で磨く。

IV. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント